

【石尾台中学校】小中学校の適正な規模等に関する意見交換会 議事録

1 開催日時

令和7年10月17日（金）午後6時30分～午後7時45分

2 開催場所

石尾台中学校 体育館

3 参加者数 14名

【事務局】

春日井市教育委員会		部長	森本 邦博
〃	学校教育課	主幹	梶田 傑
〃	〃	指導主事	湯浅 公
〃	〃	課長補佐	深見 健司
〃	〃	主査	安田 和志
〃	〃	主事	杉山 太一

4 議題

石尾台中学校区における小中学校の適正規模及び適正配置に向けた検討について

5 会議資料

小中学校の適正規模及び適正配置に向けた検討について（石尾台中学校）

午後 6 時 30 分 開会

1 開会

教育部長あいさつ

2 議題

- (1) 石尾台中学校区における小中学校の適正規模及び適正配置に向けた検討について

【事務局】

<本市の基本的な考え方とこれまでの取組について>

- ・児童生徒数は全国的な少子化の進展に伴い減少を続けており、本市においても、同様に減少していくと推定される。子どもたちにとってより良い教育環境を実現するために、学校の適正規模や適正配置について検討を進める必要がある。
- ・学校規模の区分について、本市では今年 2 月に「小学校・中学校の適正規模の基本的な考え方」を策定し、その中で、規模が小さい学校について、クラス替えができるかどうかの視点から学校規模の区分を設けた。
- ・クラス替えが可能であれば、児童生徒同士の間関係に配慮した学級編成ができることや、集団の中で社会性を身に付けたりできるなど、子どもたちにとって多くのメリットがあることから、本市では、小学校、中学校ともに 1 学年に 2 学級以上あることが必要であると考えている。
- ・どの学年もクラス替えができない「過小規模校」や一部の学年でクラス替えができない「小規模校」について、過小規模校を優先に、適正規模の確保に努めるように検討することとしており、「坂下」「藤山台」「高森台」「石尾台」「岩成台」の 5 つの中学校区にある学校を最優先に検討を進めている。
- ・これまでの取組として、令和 7 年 4 月から 5 月にかけて、対象校区の小中学校 17 校の P T A 役員の皆様への説明と意見交換を実施した。その後 5 月から 6 月にかけて児童生徒やその保護者の皆を対象に、6 月から 7 月にかけて、地域にお住まいの方を対象にアンケートを実施した。

<児童生徒数推計について>（資料 1 ページ）

- ・昭和 59 年度から令和 19 年度までの、石尾台中学校の生徒数の推移は、昭和 62 年度の 975 人をピークに、令和 19 年度では 87.2%減少の 125 人と推計される。

- ・石尾台中学校は、今年度、生徒数 337 人、10 学級で、学校規模は、小規模だが全学年でクラス替えができる「やや小規模」である。今後は、生徒数、学級数ともに減少し、令和 18 年度から、クラス替えができない学年がある「小規模」になると推定されるが、令和 22 年度では「やや小規模」であると推定される。
- ・玉川小学校は、今年度、児童数 195 人、8 学級で、学校規模は「小規模」である。今後は、児童数、学級数ともに減少し、令和 9 年度から、全学年でクラス替えができない「過小規模」になると推定される。
- ・石尾台小学校は、今年度、児童数 159 人、6 学級で、学校規模は「過小規模」である。今後は、児童数がさらに減少し、「過小規模」のまま推移すると推定される。
- ・押沢台小学校は、今年度、児童数 187 人、8 学級で、学校規模は「小規模」である。今後は、児童数、学級数ともに減少し、令和 13 年度から「過小規模」になると推定される。

<アンケート結果について>（資料 2～5 ページ）

- ・「1 学年に 2 学級以上となるように、学校の適正な規模や配置に市が取り組むことについて」の質問では、石尾台中学校では、「賛成」の方の割合が保護者で 60.0% となっている。地域の方のアンケート結果は、小学校単位で取りまとめを行っていることから、石尾台中学校区内の小学校の回答を集計した「全体」を見ると 64.6% の方が賛成と回答している。

「反対」の方は、保護者で 12.5%、地域の方で 24.4% である。反対の理由として、保護者の方は「登下校の時間や方法」や「環境変化による子どもへの影響」を心配する方が多く、地域の方も「環境変化による子どもたちへの影響」を多くの方が心配している。

- ・先ほどの質問に対して「賛成」と回答した方のうち、「ご自分の子どもが通う学校、またはお住まいの地域の学校が適正な規模や配置となるように取り組むことについて」では、石尾台中学校、全体ともに「賛成」の割合が、保護者、地域の方のいずれも高い比率となっている。賛成の理由として、保護者の方は「子どもの人間関係に良い影響を与えるから」と考える方が多く、地域の方は「子どもたちがより良い教育環境で学校生活を送れるようになるから」と多くの方が考えている。
- ・学級数については、保護者の方、児童生徒ともに 1 学年に複数学級が望ましいと考えている方が多く、クラス替えを契機に新しい人間関係を構築することができると考えている。

石尾台中学校では、保護者の方の 98.5%、生徒の 96.9% が複数学級を望ましいと考えており、高い比率となっている。

- ・「学校生活において重要と思うこと」では、児童生徒は、「体育大会などの行事でクラスに活気があること」や「クラス替えができて、新しい友達がたくさんできること」が大事だと考えている。

地域の方は、「子どもたち一人ひとりの状況に応じたきめ細かな教育」や「子どもたちの登下校」が重要と考えている。

- ・「魅力ある学校づくりを進めるため、学校の規模や配置を見直す場合に重要と思うこと」では、保護者の方は、「子どもの人間関係に広がりがあること」や「子ども一人ひとりの状況に応じたきめ細かな教育」が重要と考えている。

地域の方は、「子どもたちがより良い教育環境で学校生活を送れること」をととても多くの方が重要と考えている。

- ・「学校の適正規模等の取組において心配なこと」では、保護者の方は、登下校に関して心配と考えており、登下校については、安全性や時間が重要と考えている。

＜本市の考え方について＞（資料 6 ページ）

- ・「児童生徒数推計」から、石尾台中学校は、「小規模」又は「やや小規模」で推移すると推定される。また、令和 13 年度では、中学校区内の全ての小学校が、全学年で学級数が 1 学級の「過小規模」であると推定され、令和 22 年度では、児童数がさらに減少すると推計される。
- ・「アンケート結果」からは、学校が適正な規模や配置となるように取り組むことについて、賛成意見が多く、複数学級を希望する意見が多い。保護者は、子どもの人間関係に広がりがあること、児童生徒は、行事でクラスに活気があることやクラス替えで新しい友達がたくさんできること、地域の方は、子どもたちがより良い教育環境で学校生活を送れることが重要と考えている。一方で、学校の規模や配置を見直す場合に、多くの方が登下校に関し心配している。
- ・「地域の特性」として、ニュータウン地区内で、石尾台中学校区は高森台中学校区と接しており、石尾台中学校は、直線距離で高森台中学校から約 1.1 km の距離に位置している。また、中学校区全体の北部から南部にかけて傾斜がある地形で、登下校の手段に配慮する必要がある。
- ・「児童生徒数推計」「アンケート結果」「地域の特性」を踏まえ、本市としては、石尾台中学校区の小中学校が適正な規模や配置となるように、具体的な検討を進めていきたいと考えている。

また、検討にあたっては、次のことに留意をする。

- 1 石尾台中学校については、「小規模」又は「やや小規模」で推移すると推定されることから、その推移を見守ることとする。

- 2 小学校については、各小学校の児童数推計から、児童数の減少が今後も続くと推計されることから、隣接する中学校区と合わせた検討も視野に入れる必要がある。
- 3 登下校の安全性や時間を心配する方が多いことから、バスの利用など通学手段についても検討する。

3 意見交換

【質問 1】

石尾台中学校区の子どもの減少率は低い。空き家に人が入れば、子どもの数は増加していくと考えている。そういったことを含めて将来の推計値をもっと細かく見てほしい。

【事務局】

石尾台地区を含めたニュータウン地区全体の子どもの減少率は、市全域と比較しても大きくなっています。全国的に子どもの数が減少する中、特定の地域だけ子どもの数が増えるというのは期待できないと思います。現状の推計値をみて、検討を進めることが現実的だと考えます。

【質問 2】

地形的に見ても、店の数など地域の利便性を考えても、ニュータウン地区が入居地として選ばれることは難しいと考えている。まちづくりの視点で道路等の整備等を実施してほしい。このことは、ニュータウン創生課や道路課へも要望として伝えている。また、統廃合については、3校のうち1校を本校に、残りは分校にしてもraitたい。年の半分を分校で、残りを合同で授業が受けれるようにしてもらい、学校を残さないと若い人に選ばれる地域にならない。

【事務局】

ご意見ありがとうございます。教育委員会としては学校の適正な規模等を検討していく中で、他の部署とも情報を共有していきます。

【質問 3】

学校が統合した場合、しっかりした教育を受けることができるか心配。統合しても子どもの数が少ないのであれば、少人数だからこそ実施可能な I C T 教育を進めるなど、先進的な教育を行ってはどうか。

【事務局】

先進的な教育など、魅力ある学校づくりは大切な視点だと考えます。

現在の子どもは個人的な環境で活動することが中心になっていると思います。このような環境の中、人間関係を築きながら社会規範を身に付けていくためには、一定の学校規模が必要と考えています。また、人間関係でつまずいた場合でも、クラス替えができることで、人間関係を再構築することができると考えています。

【質問 4】

資料で石尾台中学校は推移を見守るとあるが、学校の適正規模化等の検討をしないということか。

【事務局】

石尾台中学校は令和 22 年度では「やや小規模」であるため、推移を見守るとしています。しかし、石尾台中学校区内の小学校の令和 22 年度の児童数推計では、仮に小学校 3 校を統合しても、1 学年 1 学級の学年が生じる可能性があります。このことから、石尾台中学校区と他の中学校区とを合わせて検討する場合には、石尾台中学校も検討が必要になると考えています。

【質問 5】

他の中学校は検討の対象になっているのか。他の中学校の検討によっては、石尾台中学校も検討することになるのか。

【事務局】

坂下地区、ニュータウン地区の中学校のうち、推移を見守ることとしているのは坂下中学校だけです。地域のつながりを考えて、まずは中学校区ごとで検討することとしていますが、隣接する中学校区との検討も次の段階で行う可能性はあります。中学校を統合することについても可能性としてはあり得ます。

【質問 6】

学校を統合する場合、それぞれの学校の指導方法等にも違いがあるので、子どもたちが戸惑うと思う。統合が決まった段階で、小学校の時から指導方法を学校同士で合わせるなど、子どもたちが環境に適應できるようにする対応については、どのように考えているか。

【事務局】

子どもが環境変化に馴染めるかどうかは心配されることですので、子どもにも説明し、段階的な対応をとることで、子どもたちが新しい環境に慣れるようにしていきたいと考えています。

過去の統合では、事前に各学校の教員同士が協議して、指導方法等について調整し、学校行事やテストの実施方法などについて、子どもたちが戸惑うことなく、新しい学校に馴染めるように取り組んだ事例もあります。

【質問 7】

取組が決まるまでは今の学校の枠組みが残ることになる。児童生徒数が少なくなること、学校の体制が維持できなくなることはないのか。

【事務局】

今の子どもたちの教育環境を維持しつつ、市としては早く取組を進める必要があると考えています。

【質問 8】

住んでいる地域の学校がなくなるのは悲しい。学校関係のボランティア活動を行う高齢者の方にはいきがいくくりにもなっている。市の取組を進める必要があると思うが、地域の皆さんの気持ちも考えて少しずつ進めてもらいたい。

【事務局】

貴重な御意見ありがとうございます。今後も皆さまの御意見を聞きながら進めていきたいと考えています。

【質問 9】

本日の意見交換会の参加者数が少ないように感じる。これでは、地域の考えを反映できないと思うので、今後も継続的に協議していくのであれば、市のPR方法を考えて、周知の仕方を考えてほしい。平日に参加できない人もいると思う。

【事務局】

保護者へは、Home&Schoolで配信し、地域の方には、回覧板で周知しています。しかし、時間帯によって参加できない方もおられるので、次回の意見交換会は土・日曜日の日中に開催し、より多くの方に参加していただきたいと考えています。

【質問 10】

意見交換会に参加できなかった人にも会の内容がわかるようにしてほしい。

【事務局】

意見交換会の内容については、説明や質疑をまとめた議事録を作成しまして、市ホームページに掲載します。

4 今後の進め方について

【事務局】

- ・石尾台中学校区の各小中学校で開催した意見交換会でいただいたご意見などを取りまとめた上で、次は石尾台中学校区全体の単位で、年内に2回目の意見交換会を開催したいと考えている。
- ・その後、石尾台中学校区で保護者や地域の代表の方、また、学校関係者などで構成する、学校づくりを検討するための組織を立ち上げ、学校の適正規模や適正配置について、具体的な検討を行っていきたいと考えている。
- ・次回の意見交換会の日程は、市ホームページでお知らせするほか、保護者の方へはHome&Schoolで、地域の皆様へは回覧板でお知らせする。

5 閉会

午後7時45分 閉会